

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：32501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530725

研究課題名(和文) 社会福祉施設における文書等のアーカイピングに関する事例研究

研究課題名(英文) Archiving of Documents in Social Welfare Facilities: A Case Study of Mahayana Gakuen Nadeshikoen, a Children's Home

研究代表者

桜井 昭男(sakurai, akio)

淑徳大学・その他部局等・その他

研究者番号：60619667

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、児童養護施設マハヤナ学園撫子園所蔵文書(非現用文書)を対象に、社会福祉施設・法人文書の分類項目のサンプルを作成し、文書の選別基準の事例を検討して、アーカイブズの対象として保存すべき文書の選定を容易にしうる方法を提示した。また、マハヤナ学園撫子園の現用文書の実態と構造についても分析を行い、その作成から保存にいたるシステムについて検討を行うとともに、文書保存のためのデジタルアーカイピングの実践を通して、その有効性などを指摘した。

さらに、研究を進めるにはあたっては、全国の社会福祉施設・法人を対象としたアンケートを通して文書管理・保存の現状や課題を析出し、全国的な傾向の把握を行った。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the (currently unused) documents stored at the children's home Mahayana Gakuen Nadeshikoen, and takes samples of the documents stored by social welfare facilities and corporations and categorizes them. Specifically, we investigate the selection criteria for documents, and present a method to facilitate the selection of documents to be archived. Further, an analysis was conducted of the actual situation and structure of documents currently in use in Mahayana Gakuen Nadeshikoen, and in addition to investigating the system of storage, its effectiveness was indicated by comparison to the practice of digital archiving. Last, we conducted a nation-wide questionnaire survey of social welfare facilities and corporations to identify the current situation of and challenges in document management and storage.

研究分野：歴史学 アーカイブズ学

キーワード：アーカイブズ 社会福祉

1. 研究開始当初の背景

(1) 1987年(昭和62年)に「公文書館法」が、1999年(平成11)年に「行政機関の保有する情報の公開に関する法律(情報公開法)」が、そして2009年(平成21)に「公文書の管理に関する法律(公文書管理法)」が制定されるなど文書管理に関する法律の制定が続き、今後さまざまな場面において文書の管理・保存の要請が高まっていくことが予想される。

これらの法律は国や自治体を対象とするもので、一義的には民間の社会福祉法人・施設にかかわるものではないが、その影響は大きく、文書管理に関する規程を制定する動きが高まってきていることは、2010年度(平成22)に淑徳大学アーカイブズがおこなった社会福祉法人・施設における事務文書等の保管状況に関するアンケート調査の結果(「社会福祉法人・施設における事務文書等の保管状況に関するアンケートの概要」、『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』第3号、2010年7月)によっても明らかである。

(2) 1990年代のいわゆる「バブル」の崩壊以降、日本社会は長期的な経済的停滞状況に瀕している。また、いわゆる「少子化」および「高齢化」に起因する社会構造の大きな変化や地方の衰退といった事態は、わが国の社会福祉法人・施設を取り巻く環境にも大きな影響を与え、その社会的な需要が高まる一方で、指定管理者制度の導入など経営的にも大きな画期を迎えている。

そのような中、社会福祉法人・施設が保存すべき事務文書や関連資料の多くが散逸・廃棄の危機にさらされている。しかし、社会福祉施設における文書管理・保存体制はまだ十分に確立されているとはいえない。社会福祉法人・施設は個人情報の問題など他の施設・機関とは事情が異なるところがあり、社会福祉法人・施設にふさわしい文書管理体制の確立は急務といえる。

(3) 2011年(平成23)3月11日に発生した東日本大震災において、被災地の自治体が持っていた多くの公文書が被災、あるいは津波により流失・喪失して大きな問題となり、役所や学校、あるいは公的な諸施設・諸機関における文書管理の問題があらためて重要な課題として浮上した。

しかし、施設や機関の活動の証であり、将来にわたって顧みるべき拠り所でもある貴重な文書等の管理の重要性は、自治体のみならず民間の社会福祉法人・施設においても同様であり、文書管理体制の確立という喫緊の課題に応えることは、まさに学問的使命であるといえる。

2. 研究の目的

本研究では、こういった社会的状況をふまえ、基礎的な事例を通して社会福祉法人・施設

における文書等のアーカイブのあり方を検討し、社会福祉アーカイブズの確立に貢献することを目的とし、そのための個別事例としてマハヤナ学園撫子園が所蔵する文書等を対象とする。

そのなかで、

(1) 社会福祉施設の非現用文書等がこれまでどのように保存されてきたのかを明らかにする。

(2) 社会福祉施設において現用文書から非現用文書となったものの管理・保存体制を検討する。

の2点について検討し、社会福祉施設が保存すべき文書についての提言を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 研究の目的を達成するために、児童養護施設マハヤナ学園撫子園を対象とし、非現用文書と現用文書それぞれの構造を分析する。

(2) マハヤナ学園撫子園の分析の参考として、昭和20年以前に設立された全国の社会福祉施設・法人を対象として、文書管理に関するアンケート調査を行い、その全国的な傾向の分析を通して課題とその解決策を探る。

(3) 必要な文書についてはデジタル化を行い、デジタル・アーカイブについても検討を行う。

4. 研究成果

(1) マハヤナ学園撫子園に所蔵されている文書等については、2010年度(平成22)に淑徳大学アーカイブズによって、1,466点の文書の目録化が済んでいるが、まだ残されていた文書があったため、その目録化を行い、総計2,536点の文書の目録化を完成させた。また、必要なものについてはデジタル化を行った。

(2) 文書の分類項目の設定について検討した。東京都福祉保健局では、社会福祉施設に対して指導検査を実施しているが、その指導基準の概要として「運営」「援助・支援(処遇)」「会計」という3つの大きな区分を設け、それぞれごとに検査項目を設定している。この基準項目が社会福祉法人・施設が日常の活動を行っていく上での基本的な項目を網羅していることを考えると、その活動の過程で作成される文書も、おおかたこれらの項目に準じて分類されうることになり、社会福祉法人・施設文書の分類項目を考える上でも大いに参考になる。

その他の事例についても検討を加えた結果、社会福祉法人・施設文書の分類項目の趨勢は、「管理」「利用者(入所者)」「会計経理」という3つの大きな区分を立て、そのもとにさらにいくつかの区分を設けるといった分類

が一般的なものであることがわかれた。そしてこれを社会福祉法人マハヤナ学園撫子園文書の分類に応用した表を作成した。

区分	分類項目	分類項目	文書名	備考
管理・運営	創立者・運営者	創立者	創立者名簿、創立者履歴、創立者写真、創立者手記、創立者関係書類	創立者関係書類
		運営者	役員名簿、役員履歴、役員写真、役員手記、役員関係書類	役員関係書類
援助・支援(処遇)	入所	入所申込書	入所申込書、入所申込書控え、入所申込書控え控え	入所関係書類
		入所許可書	入所許可書、入所許可書控え、入所許可書控え控え	入所関係書類
		入所届出書	入所届出書、入所届出書控え、入所届出書控え控え	入所関係書類
		入所届出書控え	入所届出書控え、入所届出書控え控え、入所届出書控え控え控え	入所関係書類
養護(養育)方針・計画	養護方針	養護方針、養護方針控え、養護方針控え控え	養護関係書類	
	養護計画	養護計画、養護計画控え、養護計画控え控え	養護関係書類	
	養護実践	養護実践、養護実践控え、養護実践控え控え	養護関係書類	
会計	会計	会計	会計、会計控え、会計控え控え	会計関係書類
		資産管理	資産管理、資産管理控え、資産管理控え控え	資産管理関係書類

分類では、まず全体を「管理・運営」「援助・支援(処遇)」「会計」「関連施設」の4つに区分した。これらの区分は先に検討した際の区分を取り入れたもので、最後の「関連施設」とは、社会福祉法人マハヤナ学園が1960年(昭和35)に調布市にあった「多摩太平園」という児童養護施設の事業を引き継いだために残された文書、および社会福祉法人マハヤナ学園が経営していた「マハヤナ保育園」(1996年閉園)の文書の一部が移管されているために、この項目を加えることとした。

この3つの区分のもとに、「管理・運営」には「創立者・運営者」「基本方針及び組織」「職員」「建物設備等の管理」「災害対策」の5項目を設け、「援助・支援(処遇)」には「入所」「養護(養育)方針・計画」「自立支援計画」「行事・娯楽」「援助記録」「援助・支援の実践」「食事」「退所後の指導」「預かり金等の管理」の9項目を設け、「会計」には「会計」「資産管理」「運営費」「税務」「寄付」の5項目を設けた。

(3) 文書の保存年限について、いくつかの施設や機関の事例を検討したところ、同じ文書がそれぞれの施設・機関でまったく別の保存年限となっている場合が多いことがわかった。これは、それぞれの施設・機関の規模や運営状況など、かなり個別的な事由によっていることがうかがわれ、ここで一つのモデルを作成するよりは、個別具体的な状況分析のもとで保存年限を作成する必要があるとし、マハヤナ学園の文書の保存年限については今後の課題とした。

(4) 文書の選別基準については、訴訟等の場合の立証的観点、説明責任の観点、歴史的重要性の観点など重要な価値を持つ文書を選別して保存することが必要となってくる。この点についてもいくつかの事例を検討するなかで、マハヤナ学園撫子園の文書で保存すべき文書の選定を行ったが、結局のところ、大方の項目が「選別保存」の対象となった。社会福祉法人・施設の文書の場合はまだ

文書の分類項目の設定や選別作業の蓄積が少なく、具体的に選別作業を行っていく中から方向性を見つけていかなければならない状況であることを考えると、選別に関する大きな枠組みを分類項目で設定し、その中から実際に保存すべき文書を確定していくという作業手順が、今のところもっともふさわしいと思われる。

(5) マハヤナ学園撫子園の現用文書については、運営に関する文書の作成とその構造、および援助・支援(処遇)の文書の作成とその構造、会計に関する文書の作成とその構造についてそれぞれ検討を行い、必要に応じて現用文書の実態について関係者への聞き取り調査も実施した。

その結果浮かび上がってきた論点としては、マハヤナ学園撫子園では保存年限を過ぎた文書が廃棄されずに保存されており、保管スペースの問題が大きくなってきていること。ただし、2011年以降は入力支援システムの導入で、紙媒体でファイルに綴じられる文書は減少傾向にあること。入寮支援システムの導入により文書の電子化が進んでいるが、データベースへのログインに時間がかかるのが現状であることなどが挙げられる。

以上のことをふまえ、現用文書の作成にあたっては紙媒体での保存とPDF方式での保存を実施すること。共有フォルダ機能を活用すること。年度ごとに提出を受けたフォルダは、事務部門代表者(事務長)がDVDを2枚作成してそれぞれを保存すること等を指摘した。

(6) マハヤナ学園撫子園の資料のうち重要なものについてデジタル・アーカイビングを実施した。その総コマ数は24,877コマで、総ファイル数は644点である。

多くの社会福祉施設では資料の保管場所が圧倒的に不足しており、その結果重要な文書が廃棄されてしまうという事態もおこっている。デジタル・アーカイビングを実施することにより、文書の閲覧はパソコン上で行い、文書の現物は参照が必要なものを除いてより安価な地方の保管庫に移送することも可能となる。デジタル・アーカイビングが省スペース化にとって重要な鍵になることに間違いはないものと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計2件)

桜井 昭男「社会福祉法人・施設の文書管理に関するアンケートの結果について」(千葉・関東地域社会福祉史研究会、2013年7月20日、淑徳短期大学(東京都板橋区))

桜井 昭男「社会福祉法人・施設の文書管理に関するアンケートの結果について」(地域社会福祉史研究会連絡協議会交流会、2013

年 11 月 16 日、淑徳短期大学(東京都板橋区))、

〔図書〕(計 1 件)

桜井 昭男 『社会福祉施設における文書等の
アーカイビングに関する事例研究』(2015 年
3 月 31 日刊行、正文社、総頁 124 頁、担当頁
7 頁 ~ 30 頁)、

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

桜井 昭男 (SAKURAI , Akio)
淑徳大学アーカイブズ主任専門員
研究者番号 : 60619667

(2) 研究分担者

古宇田 亮修 (KOUDA , Ryoshu)
淑徳大学長谷川仏教文化研究所専任研究
員
研究者番号 : 8044514

(3) 連携研究者

長谷川 匡俊 (HASEGAWA , Masatoshi)
淑徳大学社会学部教授
研究者番号 : 10095408

菅田 理一 (SUGETA , Riichi)
東洋大学ライフデザイン学部助教
研究者番号 : 70611383

土井 直子 (DOI , Naoko)
山野美容芸術短期大学美容芸術学科非常
勤講師
研究者番号 : 20465826